

二百十日の平壤は一時曇り模様なり  
しも東又は西の風晴れ農作良好なる  
し(平壤特電)

▲神宮茂八氏(商人) 二日朝釜山より入  
(朝鮮ホテル)  
▲ビー、ブラオン氏(英商人) 同上  
▲ブライアン氏夫妻 二日朝北京へ出

たいしことだ ▲ 侯が未だ聞多と云は  
 時薨去せられた實に

○老眼湛淚

我政府より支那政府に返附せら  
る。島根新聞

酒

京成南山町  
花

願候敬具

物品購買入札公告  
一、荷車運賃五百拾枚  
此入札保證金各見積價額ノ百分ノ  
五以上  
右物品購買者ノ者、本府庶務係ニ就  
見入札人心得書、契約書仕繕書、就  
見本府庶務係ニ入札スヘシ  
此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔任  
大正四年  
八月三十日  
京城府

趣意書  
喜新厭舊、惟是各役、意々、御更迭、欣  
喜に不謀、候者、御承知、當  
京城に於て、來る九月十一日、より、十月  
卅日迄、所收、五年記念、朝鮮物産、共進會  
開辦、せられ、候に、付て、是の機會を、利  
用し、諸般、なから、本組合、主催者、と相  
朝鮮全道、理髮師、大會、主催者、と相  
一堂に會し、各意見、を交換し、以て、斯  
業の發展、と將來の親睦、を計り、候事  
に、決し、候に、付て、是の組合、所在地に  
は、通知、致し、候得、共、御知、遇れ、有之、様  
記、規定に、付、出席、希望の、同業、諸氏は、左  
望、に、不、堪、候、者、御、臨、會、被、成、下、度、希  
希望、期、は、來る、十月、十四日、午前、八時、出席  
希望、者は、會費、金、一圓、相添、へ、九月、十  
五日、迄、に、左、記、事務所、へ、御、申、込、被、下  
度、候、事、

朝鮮全道理髮師大會  
事務所  
京城南山町三丁目十三番地

大田温泉  
南鮮唯一の靈泉だ、と稱  
せらる大田温泉は、開業  
茲に一年、浴室、に、申すに  
及ばず、旅館の、設備、殆ど  
完全し、浴客、日々、數を、増  
し、面目、一新、致し、候  
交通、至て、便、大田、驛、を、去  
る、僅かに、二里、道路、平坦  
砥の、如くに、候、自、國、人、在、候、者、と、同、様、に、  
風景、夏に、宜しく、西に、忠  
南の名岳、鷲龍山、あり、山  
中、名刹、東嶺寺、甲寺、あり  
温泉、を、去る、一里、餘、東、錦  
江、支流、に、臨み、消夏、好適  
の、地に、候、何、卒、大方の、諸  
彦、御一遊の、榮、を、仰、度、候  
大田温泉、株式會社

酒清良醇  
目丁四町本川仁  
店酒金吉  
番四六七話電  
移轉  
南山町二丁目拾八番地  
へ轉居す  
九月一日  
藤村忠助

内外各國  
食糧品  
全森川商店  
電話三五五番、三二〇七番

神佛御婚禮御進物用品一切取揃へ居申候  
富貴味贈製造元  
高麗郡恩平面内洞獨立門外  
森川萬富園工場

大共進會と即賣大會  
内鮮資本家多數京城に集まる  
家代田永田放賣の一大好機來たる  
放賣土地大募集  
申込無料  
京城太平通二丁目多山不動產信託所内  
家代田永田放賣の一大好機來たる  
好機を逃せず、速に、申込、外、京城不動產即賣會  
物件申込九月十五日限  
電話三二一番

最上醬油  
田中支店醸造  
目丁三町本城京  
番四六七話電

漆器廉賣  
名産石川縣山中温泉の漆器は物産として比類  
なき美術品なるが今回當地共進會と共に皆様  
方の御便宜を計り左記の處に出張殆んど御賣  
同様の安價にて販賣可致候間多少に不拘御用  
命願上候  
製造師 漆器 打喜商店  
京城南山町大門野前京旅旅館電話二六三番  
石川縣山中町

東京竹製内金庫堅牢  
實に世に既に名評あり  
金庫を使用せざる人は  
財寶を貴ばざる人なり  
特約販賣店  
和洋金物商  
藤釘本藤次郎本店  
京城南山町二丁目  
電話四二五二番  
振替所京金庫二五七番  
御中越次第目録進呈す

謹告  
各位様御清祥之段奉慶賀候陳は弊  
樓儀今般基礎を鞏固にし營業上に  
對しては時勢に鑑み銳意革新を圖  
り奮勵以て各位の御満足を得る覺  
悟に御座候間何卒倍舊の御引立を  
給はらん事を伏て奉懇願候敬具  
京城南山町  
花月  
電話五七五、三三〇番







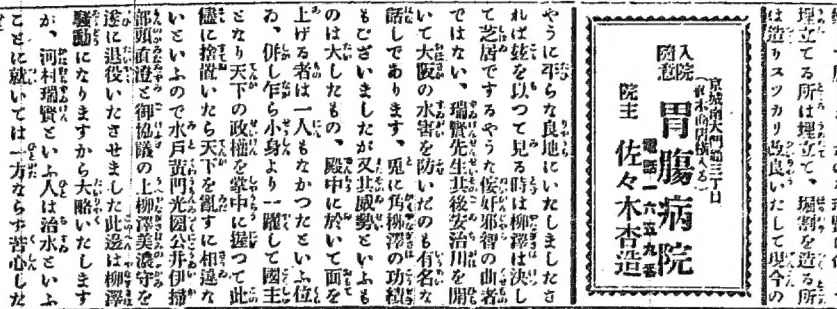




第一百四十一席

浪上義三郎速記  
桃川如燕  
L3寅

出羽守殿瑞賢に向つて 出「さういふ事にして砂子を引く 瑞「其は細い竹の筥へ櫛に穴を明けて、風罩の中へ入れまして、廻しなると砂子を吹くので出」其つ切りか 瑞「左様 出」其に高いた、併し其方の申す通り、其工風が尊い所である、と大層お寶ものに相成り、其後瑞賢先生出羽守殿の御屋敷へ始終出入をして居りました、是を聞いて樺太郎も羨いてさうも瑞賢先生と云ふ方は大した器量人、好し武田家に仕へ武田家滅亡の後下鄉の柳澤に整居いたし其子菅木信濃は後俊の頃は奥人でありましたが其後信濃は改め兵部丞となり、村名を取つて柳澤と云ひ徳川家へ奉公して殿様としてを勤め百五十貫石に上りました其子池部安堂、其子息が獨太尊後出羽守作明、名代の器量人でございますから五代將軍頼吉の御意に叶ひ御説教をうけてはつて吉保と改め美濃守に任官いたし樺平の御稱號を許されたと



のは無かつた、三代將軍家光の寛永十年に初めて湯島に聖堂といふものを建立したされたが之は明暦三年國祿の災に罹つて燬失いたし、甲府宰相・重臣・雄志の志があつたが累々として逝去之に依つて柳澤家・深守・吉保・綱百公に勤めて聖堂を建立したされた、林大學頭が細圖を記したため、命・木修理亮が普請奉行となつて聖堂を護したる聖堂出来た、正面上に掲ぐる處の「大成殿」の額は將軍・吉公の筆、又入徳門の額は持明院・大納言の筆、又でいいます、御柳澤家・守は河村瑞賢の才智、聞いて召出されてに相成り、陣田玉川の上水を改修いたし、又本所深川邊も水のために困弊して居りましたのを確實に命じて

人參を科學的に研究して之を錠劑とせる


○ミツワ人參錠

製劑責任者 關根士 石 尾 貞 朝

定價  
 百圓入 金五拾錢  
 五百圓入 金貳圓

人參は數千年の古支那の醫聖百藥の長として世に傳へてより萬民之を用ひて無比の靈藥と稱したるも其學理的解説の缺如と西洋醫術の輸入とは近世醫家をして之が効驗を疑はしむるに到れり然るに轉近確實なる學者相踵て人參の研鑽に従事し本店試驗部亦多數の學理的實驗と臨床的研究とに依て其効力の偉大なるを確認したるを以て茲に人參の品質最優秀なる者を撰び學術上合理の方法により精製して錠劑となし汎く發賣することなしたるなり

○ミツワ人參錠適應諸症

[illegible]

代書開業廣告

御依頼事件は極力迅速且つ誠實を旨とし御取扱可申上候

仁川本町三丁目郵便局前

目赤電報 阿比留代書事務所

主在 阿比留福治

電話三三五番

大阪府堺市

醸造發賣元 肥塚源次郎

醇良清


青



埋立てる所は埋立て、堀割を造る所  
 は造りスツカリ造良いたして現今の  
 やうに平らな良地にいたしました  
 れば錢を以つて見る時は柳澤は決して  
 芝居でするやうな時辰好那智の曲者  
 では無い、柳澤先生其後安治川を開  
 いて大阪の水害を防いだのも有名な  
 節であります。兎に角柳澤の功績  
 もございしましたが又其威勢といふも  
 のは大したもので、殿中に於いて面を  
 上げる者は一人もなかつたといふ位  
 ゐ、併し乍ら小身より一躍して國王  
 となり天下の政權を掌中に握つて此  
 儘に控置いた天下を亂すに相違な  
 いといふので水戸・黄門・光圀・公井・掃  
 部頭・直造と御位階の上・柳澤美濃守を  
 遂に退役いたさせました此邊は柳澤  
 騒動になりますから大膽いたしました  
 が、河村瑞賢といふ人は滔水といふ  
 ことに就いては一方ならず苦心した

[illegible]

十六形 同八金 廿一圓五十錢  
 右は全圖業の品にて本會商りて有る物  
 店に無き所のも伏して願ひば急用命發  
 何處の地方遠隔の御注文に對しては代金引換  
 小使便にて御送の中上候  
 如斯原價 納め申上候  
 時 寄附品、ミシン機 輸入商  
 機自轉車 洋油 各國貨  
 本店 京城本町二丁目電話九七二番  
 支店 京城錦路通二丁目電話五三三番  
 テレメン 油  
 クレオソート 油  
 牛 脂  
 機油 一切  
 求イェル油  
 ナフタリン  
 ベンツール  
 カストール 油  
 其他諸油 漆料  
 大阪 吉川製油所  
 振替貯金大阪三三三番

<p><b>石碑</b></p> <p>誠實に熱心勉強。特にお腹腸胃科均 建康治癒大業満 神速石平清 云々也 云々也</p> <p>明治元年の創業。 東京東九區五番</p>	<p><b>外科</b></p> <p>(遠國輸入)</p> <p>梅毒、淋疾、皮膚病、疳門病、痔瘡、眼耳鼻喉科等。</p> <p>本院在 市橋本町一丁目 電話二四七</p>	<p><b>内科</b></p> <p>小児科</p> <p>院長 島崎龍一</p>	<p>京都本町三丁目 <b>佐藤牧太郎</b> 同本店 特約販賣店 <b>明治屋支店</b></p>	<p>酒</p> 
--	---	--	--	--

い方をお世話したといつて喜んで居りました、其後又瑞賢が工風いたしましたのは火流布と申し、藝伎を糸に透して布に織りましたもので、何のためかといふと火中へ入れても燃えませんが、仙臺の太守より注文になつて之を献上いたしました、其後諸侯より御衣類になりましたが、瑞賢仔細であつたこの火流布は遊りませんやうで、相違らず奇才を以つて諸侯のお屋敷へお出入をいたして居りました、この瑞賢先生を取分け用ひましたのが、柳澤美濃守、柳澤駿助を引起した位の人、物で世間では悪人のやうに思つて居りますが、決して、柳澤は悪人ではない、大器量人、器量が餘つて反つて身を亡した、抑も柳澤の先祖は新羅三郎義光より出て甲斐源氏の末流として青木朝貞信房と申

いふ大した出世でございます、尤も美濃守の伯父に當る人が、護持院隆光、將軍の伊賀桂昌院の御氣に入つて大した勢ひかういふ手筈がございますから美濃守の世も早い後に四つ、斐の國主百萬石の封書を頂戴したことが、併し吉街といふ人は仲々の賢い人、林大佛頭義生復後を祀つて當時有名な學者と交はり、文學を盛んに獎勵いたしまして湯島へ聖堂と申す、今以つて歴然と残つて居りますから申上るまでもございせんが、地味聖堂の初まりは文武天皇の御宇に實年即順太子より孔子の像並びに十哲の像を送る、是を朝廷の大講堂に安置して祀らせ給ひ、其後武家の學校は家康公の時、林道春より起つて二代將軍の時までは學校の司長と爲

東京小間物屋

仁川寄

電話八三三號

== 實 確 効 有 ==

丸 効 特 や リ ラ マ

○。○。

龍山元町三丁目  
本舖 林藥房  
京坂本町二丁目  
代售 山岸天祐堂

診 休

急務出來販國  
自九月 壹日  
至九月拾五日

松村三省

[illegible][illegible]

段生前辱知諸君へ謹告仕候  
追而葬送は明三日午後三時永樂町西本願寺に於て執行可仕候  
大正四年九月二日  
男上田勝助  
上田武市  
親戚 佐々木幸助  
總代

旭町二丁目金古屋(下)  
株式會社京城葬儀社  
本社は支店出張所等無之に付御用の節は直接御用命願上候  
二川原  
電振馬車の中河原重吉  
殺佛有之候 井上芳太郎

電話九五七番











八年でたけ  
いと

又家の大きさに矢束の数を標準として数  
るが矢束といふのは横一、縦高さ三四尺位  
間、横長は又五個を斜りにしたやうな

同書に「王儲の御人」云々あり

1

...

1

100

11

1

1



番衆浪人  
商井年終

仁大夫の雲水は愕然としたが、「へ。蒲川郷は織田家の重臣、天晴の武將、と咄をればかりより存せぬやう！何かにしてこれ、見やしや通り」の雲水もやで……  
「これは左衛門御坐らうな」と修験者は駐馬しながら打連れて歩く中にある地蔵堂の前に来た。



「これは御方の方かよう知られやうが、地獄はあの様な始終柔和やかに唯慈悲をのみ衆生に施するぢや、慈悲は和平、世を血腥き戦亂の巷より救うて、萬民を救ひの苦しみを脱れさせうとある。」

康を斷つてをく。

△月△△日 エスさんが貸して下さりて被仰つた、さかしらばや物言ひを出してどんなものかしらと、うそ言ひて見る、男と女が各異性の性格を備へて百つといふふりさうにも無いことだけれど、古風的に云ひまはし

「ホウ。御村にない羽柴殿の方  
ぢやナ」  
「方々に無い。これが眞實ぢや」  
と修驗者は臆と云つて。  
「されば、柴田殿が伊勢へのお  
召。その爲には自衛の道は取られ  
が、柴田殿既に和室の使者を送ら  
れたらば、それこそが慈雨和平の大  
業に、實に功を成すべし」  
た國澤又文章に感服する。  
△月△日 復活。死の脱逃を書  
房から持つて来る、忙がしかつたが  
に袖の帳に入れてちよ／＼のどか  
た、死の脱逃は熱烈に。風よく空  
側で這さんに聞いたイガゴリイタで  
浮山だつたのに。死の如く強して  
は割合に極やかになつて書いてあ

深し △

文  
品  
ム  
ツ  
ト  
モ  
日

吉さんその人のお店番婆のやうな  
のおくみの、面影も描いて見た桑の  
質の櫻宮が、物が目の前にあつて手  
を當てたら染み出すに思はれた。  
△月△日 佐田さんの貸して下さ  
つた女の一生には赤糸筆で線や點が  
澤山ついて居た。時々不用意によむ  
でゆく私は露骨な形容詞に打つてか  
つて獨りて醜を結くした。そして私  
はもう半分で止めた。此時私はしみ  
はもう讀むのを止めようと思つた。  
女といふものが、いつも情なく庵堂  
を作つて頭を困めて一生行ひすま  
うと思つたりしたのは此際だつた。

も王妃も途中で消えてしまつて結末でどんなになつたか分らない、迷ひんにも伺つて見ようと思ふ。

△月△日 思ひ切つて青路をやめる本屋で聞いて見たら京成で注文されてるのは三冊ださうで、賄り私はその新らしい女の一冊だったのだ。

達さんも先月で御止めになつた私は、は到底新しい女にはなれつこはありませぬわつて二人で突つた姉妹に背踏より服があるなら料理の本をお讀みなつて叱られた故にして、新しい女になつて掛なつた私を顧視するたつた一年其趣いたつたお染だけれ、浅い執心があつて雷鳥さんや野枝さんや花世さんと歌津さんの御健

清い薄理想界の窓枠を破つて目をむいた恐ろし悪魔が被覆の楯を打ち下したやうに思はれて、もう私の目は眞暗になつた。

私は今一度深く眠つて元にかへられよう叫んだ、もう醒めなくてよい、もう叫んだ、心の千斷れるほど、魂の消ゆるほど、響くして私は作品に動かされたい。確乎しい思想がほしいと思つた。

**新刊と雑誌** (紙版原稿本は出品)

▲**耶馬台國探見記**(渡哲男著) 我土上に於ける有名人の著書は今何と稱すべきなり吾學者の嗜好所たること一途ではあるに非ざるや耶馬台國探見記の如きは日本探險史の神功勲也考定せるべきあり而して耶馬台國探見記は上巻に耶馬台國の全圖あり下巻に耶馬台國の地理あり是就觀察者の意見に即して

同國を離れて開闢を志すものと視れり之れが深  
く從つた結果を思ふと我々も驚くべき古史  
研究者の一眼を惹きたるやうな美はたなく  
共に著者の言の如く知らぬ曲上の大発見と  
云ふべきなり(鶴岡門馬町域内村大字本町  
三の三郎神社附誌八頁)

○婦人之友(九號) 壽定は敏の風情であ  
る張張の笑はれに幾度か對する色を考へ  
「方々仁と云ふ」功人家族に三毛士を初め  
家庭の人の必ず預んく遊ばせ置かれけりな  
るを以てある一定得(金十八號東部諸司々  
方上り雜誌二四八頁誌)

○婦人雑誌

[illegible]

便十餘年。其時。新嘉坡。英。荷。美。法。各。國。領。事。及。會。館。一。致。推。選。爲。總。領。事。其。時。新。嘉。坡。報。刊。載。云。云。價。廉。實。惠。五。洲。藥。房。經。理。人。白。樹。林。君。啓。則。一。一。其。詳。

天下一般ノ藥ミ  
 本劑は從來藥學  
 專心藥にして機  
 能の於て一般の  
 病の如き疾患は  
 手簡易にして服  
 用便覺するに  
 至るものなり

霍乱ノ症  
 嘔吐ノ症  
 腹痛ノ症  
 泄瀉ノ症  
 痧脹ノ症  
 霍亂ノ症  
 嘔吐ノ症  
 腹痛ノ症  
 泄瀉ノ症  
 痧脹ノ症

有名  
 試驗  
 功効  
 有驗  
 試  
 驗  
 功効  
 有驗

五洲藥房  
 經理人  
 白樹林  
 君啓

るを以て何人とも誰か願望者なると否とは直に判定せらるる者也

市上最功の特効藥と稱するもの  
の枝葉に達しは優越品なきに  
其特長並に諸君には類相品なきに  
所以するもの也

本劑を主とする治癒薬を内服す  
るが一種の化學的作用を起  
し殺菌防腐と共に排泄作用を起  
すガンの尿中非排洩自然の  
尿中の尿酸を來すものに  
洗滌する變化を來すに  
毒菌を撲滅せしむるなり  
るをわきて非ざるを見ずと稱す  
るも過言に非ざるなり

**藥價**

治癒藥 一個四角五分  
散劑 一樽二角五分  
（大樽一元二角）  
（小樽六角）

京城南大通四丁目（南大門正西）  
**本舖 達摩堂救世藥館**

電話二五八三番振替一二六九番

支那の骨董  
満洲みやげは支那の骨董に  
限る。賣店は之を廉價正札に賣る。

支那骨董

大連方外軒

(監部通郵便本局隣)

産婦人科、小兒科  
外科、内科一般

院長 佐藤小五郎  
次長 マダモウシ 内田義雄  
次長 森島節生 内田萬作  
次長 土山田

川仁 佐藤病院

電話四〇九番

訪おとづる、秋風あきかぜ  
訪おとづる、福音ふくいん

好進(こうしん)な人と不進(ふしん)な人  
 腦神經衰弱治療法  
 勿論(もちろん)である此病(このびょう)になると、甚目(しつめく)中睡(ちゅうすい)なつた、欠伸(くつしん)が出たりする物(もの)である。一體(いったい)に根氣(こんき)が弱(よわ)くなつて、仕事(しごと)に熱(あつ)になれない。働き易(やす)い氣(き)が更(さら)に易(やす)い。怒(おこ)るすゝ、機械(きかけ)が直(ただ)るすゝ、泣(な)くすゝ、笑(わら)ふたゞ、一體(いったい)體情(たいじやう)的(てき)になるで、何(なん)も、

かちして他人の好過を羨む。『我が  
の男と同じく健康であり同じく  
を愛してゐるが彼よりははるかに  
は何故であるか世渡りには出来  
らう』などと思ふやうな誤解を發す  
ものがあるが物必ずや因おつて果  
りて、それにはそれだけの原因が  
あるのだ、つまり一方の人格が他  
の格より劣つてゐるからこんな事  
に、それを落人は氣が付かないの  
だ、その氣が附かないから、つて  
は其最も好い例である此の氣に  
腦筋が神經衰弱をきたしかつて  
健康良滑レーベン(如き社會的信  
念)が、

[illegible]

意しなればならぬ。神聖な事  
 神聖衰弱とヒステリー  
 處がて現代精神病と神聖衰弱  
 女ならヒステリー)の多い時はない  
 上を一面から説明するのにはか  
 上常時、病者の健康診断、ペン  
 理る處で非常な勢で需要者の好評  
 得てゐると云ふ事實である。此病  
 の容態として最も多いのは頭痛で  
 の天氣具合で頭が痛んだり重かつ  
 した時に頭の中が朦朧として空  
 になつたやうな事もある。  
 耳鳴、眩暈は先づ人によるとして  
 士を初めとして、森田博士及び陸海  
 軍諸博士、醫學士の大家が世に對し  
 責任ある推察、或は有明説明をなさ  
 たのも此特色を認めたからに外な  
 ない千支の量も、蟻の一穴より崩  
 は千古の眞理である。皆かくなる頭痛  
 だ氣無情のため一生一度運をなす  
 だ氣も限られぬ些々たる記憶の誤  
 から取逐しのつかぬ失敗をせぬと  
 限られぬ養生、家庭、按摩、技藝  
 技術家一家に苦勞多き人など渾て  
 て自己を誤るやうにせしめられ  
 ればならない。  
 簡易な治療法

さあるのは何を喰へても不寐な事がある。消化不良、食慾不進で便通は極度に不規則。それから視力が甚しく弱つて少し物を凝視するとすぐ涙ぐんだり熱くなったり文字などを眺んでゐるとやがて字がぼやつと眼に映るなどである。之をよく胃腸病、眼病と間違へるが然し之に加ふる下のやうな容態の人でありました。必ずやそれは腦神経衰弱症なので夜睡れないで寝やうと床に就て種々な妄想や取越した夢のやうに計畫に照れて却ち睡れず醒らんとする程に覺れる。僅に睡り得れば夢の見聞で非常に疲る發汗をかくこともある。夜斯うだから朝の不快は致し書いた容體だけでは尙間に落ぬ人もあらうが、さう云ふ人は勿論でも上達レーベン（ラッベーン）の發見者常持士の著述による「**腦筋衰弱療治法**」に精神療法』の二書を讀むがよい此には本邦の詳細な容態や心得及び確實簡易な治療法が何人にも解るう易しい文章で述べてあるので東京千代田區弓町二十二貳醫院中定太郎兄ハカキで申込まば何處の人も何でも無代進呈されるのであるそれは薬用の如何を問はず進呈するのであるから遠慮なく申込まれんことを希望する然らば二書は速時買下す手元へ送呈するものであるから寧ろ急げ直面に申込め。

德富蘆花譯述 (第三版)  
探偵異聞  
▲定價金二十五錢  
▲郵税本社持  
○鬼物の奇談 ○うらおもて ○  
○雲がくれ ○秘密條約 ○大

讀めまつみの七輪にして凡て  
外國探偵小説中の粹を決き之を  
譯するに鹿花氏得意の妙文を以て  
す 波瀾万丈人物活潑の奇一讀  
魂飛び神來もの思ふに鹿花氏の  
著書中全く色彩を別にして凡そ  
のに於て亦以て著者の多趣味多  
方面の筆致を窺ふに足る可し

京城日報社代理

**日本郵船**

大連丸 天津行	九月十九日 正午出帆
河野丸 九龍行	九月廿五日 正午出帆
模範丸 上海行	九月廿八日 正午出帆

豐川丸  
神戶行  
九月廿二日  
午後四時出帆

[illegible]

原丸	信丸	興丸	天丸	豐丸	浦丸	陽丸	品丸	久丸
各港經出	各港經出	各港經出	各港經出	各港經出	各港經出	各港經出	各港經出	各港經出
九月三日	九月三日	九月五日	九月三日	九月三日	九月四日	九月四日	九月四日	九月四日
仁川發	仁川發	木浦發	木浦發	釜山發	釜山發	釜山發	釜山發	釜山發

[illegible]

**三尼崎汽船出帆**

大樽丸 九月九日 四時出帆	芳代丸 八月十日 四時出帆	群山未滿釜山下燭神戶大阪行 九月十一日 四時出帆
---------------------	---------------------	--------------------------------

土海丸  
九月十二日  
四時出帆

仁西勝摩通二十  
高杉園滑部

[illegible]

三條丸 九月廿一日 大板行  
 四門司、字島、神戶、大板行  
 三條丸 九月廿一日 大板行  
 傳須奈、嚴原、壹岐、博多行  
 大真丸 九月廿一日 大板行  
 九月廿六日 午後十時  
 出帆  
 本線取組區 大池回浦部  
 寄附金 大池回浦部  
 本線取組區 大池回浦部

第三 期	西洲津沿岸各港を經て雄基行	九月四日 前八時出帆
第二 期	阿波國共同汽船株式會社 本局（丁）電話（八八色） 川代代理店 山下 潤部 豐日電話店（四四四）	九月十日 午後九時 出帆
第一 期	元山代店 山口 潤部 南大門電話（六二二） 元山代店 山口 潤部	九月十日 午後九時 出帆

[illegible]

○大連直行	○元山、清津、浦湖行(釜山出帆)	○蔚山、釜山、橫濱行
△千珠丸 ○イサン丸	九月 九日 正午出帆	九月十四日 午後四時出帆
○城津丸	九月七日 午後九時出帆	
○神宮丸	九月十七日 午後七時出帆	
○久丸	九月十七日 午後七時出帆	
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)	九月三日 午前十時出帆	
○新高丸	九月五日 午前十時出帆	

**注意**  
 ○朝晩の霧で航行困難な時は船主の便で往還を中止し、船舶引航の一時間前貨物運送に遅延する等客船期に印した客船期限り  
 ○可印は一等客船期に印した客船期限り

仁川切符發賣所 大阪商船會社支店  
 京城切符發賣所 內國通運會社支店  
 電話二二三〇至五五〇  
 電話七〇八番